

Family

令和6年10月特別号
(全国学力・学習状況調査)
小野市立河合中学校舎

9年生 全国学力・学習状況調査について

校長 高瀬 城作

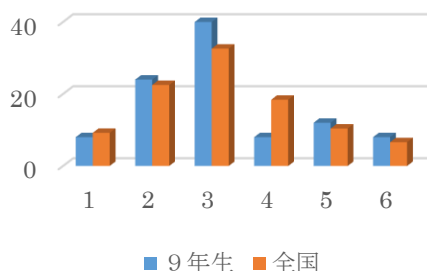
9年生を対象に、全国学力・学習状況調査が4月に行われました。本校の結果とその分析は下記のとおりです。今後とも学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの社会性を豊かにし、学力を向上させていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

◎生活調査の結果

<良好であった項目>

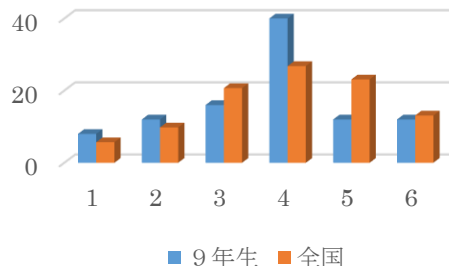
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

学校の授業以外の1日あたりの勉強時間



1…3時間以上 2…3～2時間 3…2～1時間
4…1時間～30分 5…30分以下 6…全くしない

学校が休みの日の勉強時間



1…4時間以上 2…4～3時間 3…3～2時間
4…2～1時間 5…1時間以下 6…全くしない

<全国平均をやや下まわった項目>

- 朝食を毎日食べていますか。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。
- 自分には、よいところがあると思いますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる

ことができていますか。

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

【考察および今後の課題】

日々の学校生活において、仲間と認め合い助け合いながら朗らかに過ごしている様子が明らかになっています。他者との関わりにおいて異なる意見について考えたり、他者を援助したりといったところが高評価となっています。また、指導する側の分かるまで寄り添おうとする姿勢や、自らの個性が認められている安心感における高評価が、おおむね良好な教師との関係につながっているように感じました。

また、授業における生徒同士のコミュニケーションが活発であり、対話を通して深まる学びの価値が定着してきているとも感じさせられました。あわせて、地域のために役立ちたいという思いや、地域行事への参加意欲も高いことが改めて分かりました。

一方で、「早寝・早起き・朝ご飯」といった基本的な生活習慣に課題がある点も浮き彫りになってきました。あわせて、自ら問題点を見いだして自主的にその解決に迫る姿勢や、目標を立て計画的に学習活動を進める態度といった自己調整力の伸長を図ることも、二学期以降、心がけていきたいと思います。それらを通して「自分にはよいところがある」との自己有用感・自己肯定感の育成を計りたいと考えています。

加えて、卒業後の社会との関わりについて考える機会を増やし、家庭・地域と学校がより一層連携して9年生の力を伸ばしてけるよう取り組んでいきたいと思います。今後とも、ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

◎学力調査の結果(全国平均と比較した本校の結果)と各教科の結果と今後の方針

(1)国語

<良好であった項目>

- ・自分とは異なる価値観という発言について適切に説明したもので話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択し、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。
- ・本文中の図の役割を適切に説明した文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。
- ・本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する問題で、文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる。
- ・文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる問題で、「すぐに」の位置を直すし文中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する。
- ・「みちたりた」の漢字を書くなど、文脈に即して漢字を正しく書くことができる。
- ・短歌の内容について、描写を基に捉えながら、情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替えることができる。

<改善を要する項目>

- ・話合いの中の発言について説明したものと適切なものを選択する問題では、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。
- ・話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く、話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる。

【考察及び今後の指導】

全国平均と比較するとおおむね良好な結果であると言えます。多くの設問で全国平均を上回ってお

り、普段から言葉の一つひとつを丁寧に扱いながら授業で読んでいることが結果につながっていると考えられます。

一方で、「話し合いの中の発言について説明した適切なものを選択する」という問題においては、正答率は全校平均を下回る結果となりました。とはいえ、本校生徒の日ごろの授業での話し合い活動は非常に活発で質の高い場面が多くみられます。日頃の授業でも、読解する力や要約する力、自分の考えを表現する力などの養成を意識しており、生徒たちの発言や気づきに教師が胸を突かれることも多いと感じます。このことから、平素の授業での力がペーパーテストという形式で適切に発揮し切れていないことが見て取れます。

それらをふまえた上で、あくまでも主体的に学ぶ意欲を伸ばし、生きる力につながる国語力の育成に重点を置きつつ、テスト形式への対応力も考慮して授業を工夫していきたいと考えています。

(2)数学

<良好であった項目>

- ・車型ロボットについて実験結果を基に、進んだ距離の最頻値を求めるなど、与えられたデータから最頻値を求めることができる。
- ・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。

<改善を要する項目>

- ・等式 $6x + 2y = 1$ を y について解くために、等式を目的に応じて変形することができる。
- ・2枚の硬貨を投げ、2枚とも裏が出る確率を求めることができる。
- ・複数のデータから5つの箱ひげ図を比較し集団のデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・点を動かしたときにできる角度について適切な説明を選ぶ問題で、事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる
- ・障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れ正しいものを選択し、複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。
- ・関数 $y = ax + b$ のグラフで、 a のみを大きくしたときのグラフの特徴を関連付けて理解している。
- ・□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になる説明するなど、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

【考察及び今後の指導】

全国平均と比べると、全体的に課題の残る結果となりました。特に、短答もしくは選択式の設問での正答率とくらべ、数学的な表現を用いて説明したり記述したりする設問でのつまづきが見て取れました。グラフの傾きや交点の意味等の知識・理解を問う設問や計算問題等の数学的スキルに関わる設問では比較的正答率が高く、データの傾向分析や図形問題等の思考・判断・表現を問われたときは、正答率がやや低くなる傾向もあります。

また、題意を数学的に的確につかみきれなかったことにより発生した誤りが散見された点についても着目する必要があると考えています。

以上のことにより、これまで以上に数学的思考力・判断力・表現力を養うため、授業の中で「なぜそのようになるか」「どのような論理でその結果に至ったか」といった考えを言語化したり文章化したりする場面を増やしていきたいと考えています。

また、関数や図形の分野においても、GIGA 端末(クロムブック)等を用いたデジタル教材の利用頻度を増やして視覚化による把握を進めるとともに、実物や手元のプリント教材等のアナログな部分とうまく組み合わせて、注意深く題意を把握し深く思考するとともに、対話による意見交換を活性化していくよう指導方法を工夫してまいります。